

## 佳作

### 私にできること

宮城県栗原市立若柳中学校

3年 鈴木 杏奈

人は皆、平等。生まれた国や場所、肌や目の色、体型、性別、性格……。これらが違っていても、誰にでも自由や幸せを求める権利がある。2022年夏、私は改めて、そう胸に刻みました。この思いは、10年後、20年後の私にもしっかりと覚えていてほしいと心から願います。

私は今、ロシアとウクライナの間で起こっている戦争が気がかりでなりません。この戦争は、ウクライナがNATOへ加盟することを阻止しようと、ロシアが起こしました。2022年2月24日、ロシアがウクライナに侵攻し、始まった戦争。その日からすでに6カ月が経ちます。戦争が起きる少し前から、毎日ニュースで流れるようになったロシアとウクライナの話。私は正直「今の時代に戦争なんて起きないだろう。」「たとえ戦争が始まっても、別に自分たちには関係ない。」と考えて、いつもの日常を過ごしていました。でも、戦争は始まってしまいました。私はとても驚き、一気に不安になりました。戦争が本当に起きてしまうなんて……。その日から、ニュースではロシアとウクライナの戦争の様子がずっと映し出されています。

武器を使ってたくさんの人たちの命を奪っていく戦争。その様子を目の当たりにして私は「国と国の考え方が違うからといって、戦争で解決しようとするのは違う。武器を使わない解決方法はなかったのだろうか。」と考えるようになりました。そして「自分たちには関係ない。」という考えが大きく変わりました。「他人事のように考えてはいけないのだ。」と強く思うようになったのです。

ロシアは、ウクライナの首都キーウへのミサイル攻撃や空爆を始め、そこから他の街へもどんどん侵攻し、原子力発電所や病院、学校までも攻撃していきましました。ウクライナに住むたくさんの人々が命を奪われ、けがを負い、苦しんでいます。家族がバラバラになってしまい、水や食料も不足し、子どもも大人もお年寄りも、全ての人々がとても大変な状況にある毎日。自由も人権も奪われてしまっているのです。戦争は究極の人権侵害ではないでしょうか。戦場で命を落とした両国の兵士たち。突然の攻撃で命を落としたウクライナに住む人々。戦争が起きなければ、水や食料の心配などなく、家族全員がそろって、温かい空間で幸せに暮らすことができていたはずです。

ニュースでは、ロシアに住む人々が戦争反対のデモ活動を行っている様子も報道されました。私はSNSで、ロシア人兵士が「戦争を早く終わらせて、家

族の元へ帰りたい。」と話している動画も目にしました。ロシア側もウクライナ側も望んでいない戦争なら、戦争をする意味なんて1パーセントもないと思います。

なぜ、何の罪もない人々が死んでいかなければならないのか、私はとても不思議です。戦争をして勝ったとしても、命に勝るものはないのに……。

日本は世界で唯一、原子爆弾が投下された国です。広島と長崎に原子爆弾が投下され、何人もの人が亡くなりました。日本国憲法で平和主義を規定し「核兵器を、持たず、作らず、持ち込ませず」という非核三原則を掲げています。日本は自分の国で起こった戦争の経験から、戦争をしてはいけない理由を、もう二度と戦争を起こしてはいけないことを、よく分かっている国だと思います。だからこそ、戦争は二度としないという姿勢を、自分の国だけでなく、世界へと広めていくことが必要だと思います。

「戦争はやめよう」「戦争をなくそう」誰もが願うことですが、口で言うほど簡単ではないことは分かっています。でも、私は願ってやみません。世界中の人たちが幸せで、自由で、平和の中で暮らすことができる日がくることを。私が急に世界を変えることはできません。だから私は、身近な、小さなことから始めます。家族や友達と接するとき、意見がぶつかったら……。クラスや学校、地域で協力して、課題を解決するには……。壁にぶつかったときには、まずは互いの考えを受け入れ、どんな解決方法が正しいのかをよく考える。いつか世界の平和につながると信じて、私はここから始めます。

2022年夏、私は15歳の自分なりに、戦争、人権、世界平和と向き合ったつもりです。今の私にできることは小さなことだけですが、大人になった私には、もっともっとできることが増えているはずです。15歳の私が考えたことを未来の私に届けたい。そして、大人の自分は何ができるのか、そのときの自分なりに、考え、行動してほしいと思うのです。